5. スクールバス運行に関する考え方

	項目	考え方
1. バスの 運行	1 土日や、夏休み等の長期休業中の運行について	休業日の運行は行いません。 しかし学校行事日の場合は運行します。 (市内他のスクールバスも同様)
	2 遅刻の場合の対応や、早退の場合の対応について	保護者での送迎対応となります。 (市内他のスクールバスも同様)
	3 道路で事故等があり、バスが時刻表通り来ない場合の連絡など通学の方法について	市内他のスクールバスでも同じような場合では、学校の状況それぞれ適した方法で登校できるようにしています。 生徒に連絡する方法など、通学の仕組みを検討します。
	4 下校時の運行で、早発、遅発の2便の運行について	運行本数は1便とする考えです。 (市内他のスクールバスも同様)
	5 下校時の運行で、振興事務所を立ち寄る場所とする設定について	地域の拠点となる振興事務所には、立ち寄るように設定します。
	6 下校時の運行で、生徒の都合により別ルートバス乗車や、他地域の振興事務所での下車について	登校と下校は同じバス及び同じルートでの乗車となります。 行先により、ルートやバス乗車人員が決まっているからです。
	7 乗車中に腹痛等でトイレに立ち寄る想定について	体調管理に留意して頂くものですが、緊急時の対応は検討します。 (市内他のスクールバスも同様)
	8 1年目は年度途中であっても、運行計画の再調整が必要となるなら、調整する場の設定について	再調整が必要とならないような運行計画で行いますが、必要な場合は調整する機会を設けます。
	9 開校に際してのバス乗車のシミュレーションについて	多くの生徒が初めてのスクールバス通学となることから、バス乗車のシミュレーションの機会を設けます。

2・バス停と乗降方法	1	バス停が自宅から 600mとあるが、同じルート上ならば申し出により範囲を超え乗車場所を選択することについて	設定したバス乗車人員に変動がない同じルート上ならば、生徒の事情により乗降場所を選択することは可能とします。
	2	既存の路線バス、自主運行バスのバス停ではなく、新たなバス停を設定することについて	バスが安全に停車でき、乗降が可能な既存のバス停を利用することとします。 ただし数か所、安全確保を前提に新規のバス停を設定しています。
	3	年度により生徒の居住地の変化に対応するため、ルートやバス停の再検討について	生徒の居住地が毎年変化することから、ルートやバス停の設定等の運行計画は、年度ごとに再検討します。
	4	多くのバスの運行となるため、登校時の学校到着時間の集中への対応について	登校時の学校到着時間は、通学に支障の出ないように分散するなど時間の設定を行います。
	5	下校時間は一斉となり混雑することから、下校時のバス乗車や発車の考え方について	バスへの乗車と発車に支障が出ないような出発時間や、バス乗車のルールを設定します。
	6	路線バスや高校通学バスが立ち寄るバス停での乗車時刻の設定について	他のバスの時刻表との調整を図り、スクールバスの運行ができるように設定します。
3・車内環境	1	バス車内での学習に必要となるWiFiの設置について	すべてのバスに、WiFiの設置を考えています。
	2	バスの到着時間など運行状況が分かる、ICTを活用した管理方法の検討について	バスの運行状況の把握が可能となるような、ICTを活用した方法の運用を考えています。
4・通学環境	1	閑散とした暗い場所等が通学路の場合、街路灯の設置について	安全対策を考える上で、地域と設置についての協議検討が必要と考えています。
	2	通学方法はスクールバス、徒歩、自転車があり、それぞれが安全な通学路となる対策について	通学路の安全対策のため、道路管理者との協議を重点的に行い、充実を図っていきます。